

修士論文（要旨）

2010年7月

高齢者専門病院の病棟看護師における退院支援行動の実態とその関連要因

指導 新野直明 教授

老年学研究科

老年学専攻

208J6905

村本弥生

目 次

I. はじめに	1
1. 研究の背景	1
2. 先行研究	1
3. 目的	3
4. 用語の定義	3
II. 研究方法	3
1. 調査対象と所属施設の背景	3
2. 調査方法	3
3. 調査内容	3
4. 分析方法	4
5. 倫理的配慮	4
III. 結果	5
1. 対象者の基本属性に関する調査結果	5
2. 在宅支援の看護の「考え方」と「実践」の実態	5
3. 基本属性と退院支援実施の有無	5
4. 退院支援実施の有無と退院支援の「考え方」と「実践」の関係	6
IV. 考察	6
1. 基本属性について	6
2. 在宅支援の看護の「考え方」と「実践」の実態	6
3. 退院支援実施の有無と基本属性の関係について	7
4. 退院支援実施の有無と退院支援の「考え方」・「実践」	8
5. 本研究の限界と今後の課題	10
V. 結論	10

引用文献

資料

I. はじめに

1. 研究の背景と先行研究

近年、入院患者の高齢化、慢性疾患患者の増加、家庭介護力の低下から、スムーズに退院することが困難な患者が増加¹⁾、医療費の高騰などから、入院期間短縮、病院から在宅への移行が積極的に進められている²⁾。急性期病院では、自宅に戻るまでの治療計画を患者や関係医療機関と共有し、退院後も適切な医療提供により在宅復帰できるよう提言されている³⁾。病棟看護師は早い段階で退院支援の必要性を把握し、患者・家族と共に退院後の生活をイメージして退院支援することが重要である。

退院支援・調整に関する研究は、病棟看護師の意識調査、退院調整の関わりから課題を導き出すもの、役割意識の実態調査^{12) 13) 14)}がある。しかし、退院支援に関する看護師の考え方と退院支援行動を促進するための要因を調べる研究は少ない。

2. 目的

病院から在宅へ移行する高齢患者が在宅療養を安心、納得して継続できるように、病棟看護師の退院支援への行動の有無と、その支援行動の関連要因を明らかにすることを目的に高齢者専門病院の病棟看護師に対して調査研究を行った。

I. 研究方法

1. 調査対象と所属施設の背景

対象は、高齢者専門病院の病棟に勤務する師長は除く看護師 200 人であった。病床数 348 床、平成 20 年度平均在院日数は 14.0 日である。入院患者の平均年齢は 71.6 歳であった。全入院患者のうち 65 歳以上は 77% である。看護職員の総数は 320 名である。うち師長は 8 名であった。

2. 調査方法・調査内容

調査方法は、郵送法とした。調査期間は、2010 年 4 月 20 日から 5 月 20 日であった。

調査内容は、峰村らが作成した尺度に、一部項目を加えたものを用いた。調査項目は、①基本属性②在宅支援の看護についての尺度：i.『在宅支援への考え方』29 項目 ii.『在宅支援看護の実践』37 項目③『在宅看護の実践』3 項目である。

3. 分析方法

調査票の退院支援の「考え方」と「実践」の尺度は、選択肢（4 段階評定）を点数として各項目の得点も調べ項目ごとに合計点を求めた。質問項目を 6 つのカテゴリーに分けそれぞれの点数を求めてその分布を調べた。2) 退院支援行動の有無と他の要因との関係を χ^2 検定にて分析した。3) 退院支援実施の有りと無しの間で 6 つのカテゴリーの得点を検討した（t 検定）。有意水準を 5% とした。

II. 結果

回答者は 82 名（回収率 41%）であった。8 割の看護師が退院支援を実施していた。退院支援実施の有無と経験年数に有意な関連を認めた。「在宅に向けたケアや退院時の看護の苦勞や工夫」で有意差を認めた。また、病棟外部部門との連携を実施する者、訪問看護に関心の有る者、地域との連携パスを知っている者、病棟外部部門や地域との連携に目

を向けている看護師に退院支援を実施している者が多かった。退院支援実施の有無と「考え方」では「生活重視の看護」「生活の自立支援」「予測と予防」「ケアマネジメント」の4項目で、退院支援実施の有無と「実践」では「生活重視の看護」「生活の自立支援」「予測と予防」「家族関係の理解と調整」「チームケア」「ケアマネジメント」の6項目すべてにおいて有意な関係を認めた。

Ⅲ. 考察

退院支援実施の有無と基本属性の関係について、8割以上は退院支援を実施していた。しかし、退院支援開始時期では、医師から退院の指示が出てからが最も多く、伴らの研究⁵⁾でも指摘されたことに一致していた。

退院支援実施の有無と経験年数には関連があることが示唆された。看護師の経験年数が長いほうがさまざまな患者・家族に接した経験を有し、臨床能力も高いため、退院に向けて必要な事項についての知識も多く有するといえる。身近な人の在宅看護・介護の経験の有無では、差はなかった。関連要因としては、「病棟看護師として今までの経験の中で関わった患者に対し、在宅に向けたケアや退院時の看護で苦労や工夫」で有意差を認めた。看護師は退院支援の実施に苦労をし、工夫しながら取り組んでいる可能性は大きい。退院に向けて病棟外部部門と連携を取ったことがある者は、9割であり、退院支援を実施している看護師は、病棟外部部門との連携を積極的に取りながら退院支援を進めていると考えられた。急性期を脱した患者の医療は地域にある医療や介護、福祉といった社会資源との連携を強化⁸⁾する必要があるとされるが、連携強化のためには、退院支援専任の看護師と病棟看護師の連携と調整が不可欠であるのではないかと考える。さらに、考え方や実践面で在宅看護に対する意識が高い看護師には、退院支援を実施している者が多かった。

引用文献

- 1) 松永篤志・永田智子・村下幸代：特定機能病院における病棟看護師の退院支援についての認識および実施状況－退院支援部署の有無による比較に焦点を当てて－. 病院管理. 21 (185) . 21-29. 2004.
- 2) 鷺見尚己・村嶋幸代他：退院困難が予測された高齢入院患者に対する早期退院支援の効果に関する研究－特定機能病院老年病科における準実験研究－. 病院管理. 1 (29) . 2001.
- 3) 川越博美・長江弘子編：早期退院連携ガイドラインの活用 退院する患者・家族を支援するために. 日本看護協会出版会. 2006.
- 4) 荒賀直子・坂本なほ子他：高齢者急性期患者の早期退院に向けた地域連携の促進－看護師の意識について－. 順天堂医学. 226-223. 2007
- 5) 伴真由美・丸岡直子他：病棟看護師長からみた退院調整の現状と課題. 石川看護雑誌. (2) . 33-41. 2005.
- 6) 高崎絹子：介護保険と看護の課題. 21. 日本看護協会出版会, 1998.
- 7) 長江弘子：在宅移行期の家族介護者が生活を立て直すプロセスに関する研究－家族介護者にとって生活の安定とは何かに焦点をあてて－. 聖路加看護大学紀要. 3 (33) : 17-25, 2007.
- 8) 久保田聡美：退院調整における病棟管理者の視座. 看護管理. 15 (4) . 2005.
- 9) 篠田道子編：ナースのための退院調整：院内チームと地域連携のシステムづくり. 山田雅子：“退院調整が求められる背景：政策の動向”. 日本看護協会出版会. 2007. 東京.
- 10) 大塚智子：在宅復帰に必要なアセスメントとケアの視点. 臨床老年看護. 9 (6) . 39. 2003.
- 11) 松井順子・太田優子：病棟看護師が担う退院調整のあり方を考える－「退院調整経過表」使用後の効果を分析して－. 第39回日本看護学会論文集(老年看護). 219-221. 2008.
- 12) 鈴木美佐他：退院調整に関する病棟看護師の意識と課題. 地域看護. 38-39. 2003.
- 13) 中尾景子：看護師の退院調整の関わり方に関する実態ならびに今後の課題と対策. 143-145. 2006.
- 14) 青木恵美他：退院調整における役割意識の実態と課題－病棟看護師の意識調査から－. 424-427. 2008.
- 15) 峰村淳子他：在宅支援の看護に関する“認識”“行動”の実態と影響要因を踏まえた看護教育への提言. 看護展望, 82-89, 2008.
- 16) 辻よしみ:看護職の在宅支援の看護の認識と行動に関する研究. 地域看護, 88-90. 2003.
- 17) 大森淳子他：在宅療養へ向けての退院支援に関する病棟看護師の意識と実際. 地域看護, 100-102, 2003.
- 18) 山田雅子：退院支援・退院調整をめぐる現状と、看護の位置づけ. 宇都宮都・編,

- 病棟から始める退院支援・退院調整の実践実例, 日本看護協会出版会, 東京, 2009, 2-5.
- 19) 峰村淳子: 施設内看護師の在宅支援の看護についての研究 (第1報) - 大学病院看護師の認識と行動の事象 -. 東京医科大学看護専門学校紀要. 12 (1) . 2003.
 - 20) 三上佑介・日下和代: 病棟看護師の経験年数による「退院調整の差と課題-入院により ADL 低下傾向のある患者の退院調整において-. 老年看護. 6 - 8. 2007.
 - 21) 城谷典保監修: 退院支援実践ガイド. 医学社. 2004.
 - 22) カーン洋子他: 大学病院療養指導室における退院支援の実態と退院新体制の検討 (第1報) . 順天堂大学医療看護学部 医療看護研究. (3) . 82-89. 2007.
 - 23) 永田智子: 退院支援とは何か、なぜ必要なのか. 臨床看護. 36 (1) 2-8. 2010.
 - 24) 樋口キエ子・田代孝雄: 医療的ケアをになう家族介護者支援に関する研究. 日本在宅ケア学会誌. 8 (1/2) . 50-57. 2004.
 - 25) 岡田美幸・梶原和歌: 看護を中心とする退院調整に取り組んで. 看護. 56 (5) . 41. 2004.
 - 26) 松下正明監修: チームで行う退院支援. 中央法規出版株式会社. 2008.
 - 27) 池田敏子・中西代志子・近藤益子他: 高齢者への効果的な退院指導-看護婦および患者調査から-. 岡山大学医療短期学部紀要 7. 159-164. 2000.